

欠席委員からのコメント

NPO法人若狭B&美ネット 理事長

美術作家 長谷 光城 氏

- ・ 全体的に、細かくきっちりと作られている印象で、5年後には福井県の文化はより充実してくると思う。しかし、県全体が文化的に大きく飛躍しそうだとは思えないのが残念。若い人がワクワク感を持って夢みる文化振興ビジョンになるよう検討してほしい。
- ・ たとえば、海、湖、山、畑等が織りなす風光明媚な福井県を活かし、福井県全体を「自然と共生するミュージアム」とする大きな取り組みなどを考え、経済←文化→環境のもとに構想される環境を取り込んだ文化振興ビジョンなど。
- ・ 手にした県民一人ひとりが文化に関心を高める、身近な文化振興ビジョンにするためには、新鮮な分かりやすい具体的な文言、形式などが必要。
- ・ 若狭町では、伝統文化の担い手が減少・不足している中で、全世帯が参加する保存協会を立ち上げ、町民一人ひとりの意識を高め、伝統文化を継承していく取り組みが続いている。県民あがての取り組みなどの事業化が必要ではないか。
- ・ 現代美術、子ども美術、障がい者アートに取り組む立場として、多文化、多様化の今の時代や共生社会を目指す視点をもっと入れ込んで欲しい。
- ・ 個々のアーティストを支援することも大事だが、自らのアート活動と地域づくり、まちづくりを連動させる社会参加型アーティストを育成することがより大事と考える。各市町、地域に多くの社会参加型アーティストが必要。

福井県立大学地域経済研究 准教授

ウェルビーイング学会 理事 高野 翔 氏

- ・ 基本理念について、文化芸術と地域経済の好循環がしっかり回った先にウェルビーイングの実現があるということが ビジョンとして明記されていることは非常に重要である。
- ・ プランの指標（資料2 P24）について、特に指標の1、2は文化とウェルビーイング、地域の文化度を測る上で重要な指標である。指標3は、幸福度ランキングの文化分野が低くなっている要因の一つがNPO等の活動実践団体が少ないといものであるため、その課題解決に資する指標として必要と考える。「指標4 県内企業の文化芸術に対する関わり」については、政策の方向性の合致と社会運動化に貢献する適切な指標になるよう検討をお願いしたい。
- ・ 次回以降、重要プロジェクトの内容について議論していくことになると思うが、1つあげるとすれば、基本方針にも「3県民全ての表現機会の拡大」とあるように、アールブリュットの推進が非常に重要だと考えている。現在は限定的な取り組みになっているようなので、恒常的な表現の場を整えることは公的支援として必要かと思う。